

ホクレン帯広支所は、2018年度に取り扱った青果物の販売実績をまとめた。天候不順もあり数量は45万7770トン（前年度比1％減）にとどまったが、品薄を背景に多くの作物で市況が堅調に推移し、販売金額は407億7700万円（同4％増）と2年ぶりに400億円台に達した。

◆収量減も価格堅調

ホクレン帯広18年度

昨年は6月以降の日照不足や長雨により、夏場の主力となるダイコンやニンジンなどで収量が平年に届かなかった。

ただ取り扱いの半数近くを占める食用ジャガイモは、道産全体の流通量が少ない中、十勝産は平年作を維持。取扱先も増えたことで、前年度比4％増の33万トンを出荷した。単価は前年並みで、販売金額は3％増の190億円に達した。

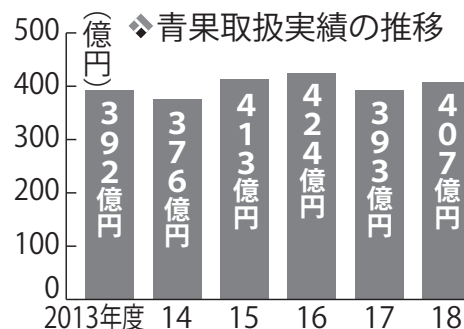
ダイコンは販売単価が32％増、ニンジンは93％増と、ともに高値で推移。品薄環境もあって、道産シーズンの市況は高めで推移し、販売金額も伸びた。アスパラガスは平年作だったが、前年の不作の反動で数量、金額ともに大きく増えた。

ナガイモ（4～10月が前年産、11月以降は当年産）は堅調だった前年産を含むため、全体の数量は12％増えた。単価は下がり、販売金額は4％減の93億円となった。

同支所では「夏から秋にかけて計画した出荷量には届かなかったが、流通面で盛り返した品目もあり、販売金額はまずまずの結果になった」としている。

同支所が扱う青果物には、ダイコンなど一部で釧路地区産も含んでいる。

◆青果取扱実績の推移



◆ホクレン帯広支所2018年度青果物取扱実績

品目	数量 (トン)	前年度 比(%)	▲はマイナス	
			販売金額 (万円)	前年度 比(%)
食用ジャガイモ	33万2650	4	190億3100	3
ナガイモ	2万9130	12	93億9200	▲4
ダイコン	3万7590	▲10	38億0600	19
ニンジン	1万9870	▲26	28億3400	43
タマネギ	1万6140	▲24	12億0500	▲15
キャベツ	6840	▲11	5億0900	▲5
ゴボウ	2350	▲20	4億8400	12
ハクサイ	3140	▲11	2億8200	11
カボチャ	2130	▲39	3億6300	1
トウモロコシ	1610	▲5	3億5500	▲1
ユリ根	200	▲9	1億7400	▲12
アスパラガス	90	133	1億0000	117
その他	6050	▲9	22億4200	4

自動トラクター過去最多 道内向け出荷100台増1690台

2019年8月10日

道は、トラクターの全地球測位システム（GPS）ガイダンスシステムと自動操舵（そうだ）装置の2018年度の出荷状況や利用実態をまとめた。このうち道内向けに出荷した国内主要8社の自動操舵装置の台数は、前年度から100台増の1690台で過去最高を更新した。累計は6120台となり、道内の国内シェアは91％に達した。

◆GPS車は130台増え2330台

道18年度調査

GPSガイダンスシステムは、GPS機能でトラクターの位置を測位し、走行経路を表示する。自動操舵装置は、GPSガイダンスシステムで示された走行経路に沿って有人のトラクターが自動で走る。農作業の省力化や高精度化に向けて、管内でも大規模農家を中心に導入が始まっている。

道農政部技術普及課は毎年調査を実施。18年度は両機器を扱う井関農機、クボタ、ジオサーフ、トプコン、ニコン・トリンブル、日本ニューホランド、ヤンマーアグリジャパン、IHIアグリテックに調査した。



自動操舵で畑を走るトラクター。
導入台数は年々増加している（本別町）